資源環境経済学特別演習Ⅱ　議事録
２０１２年度　第４回

報告題名　ＩＴを活用したレクリエーション農園の没場所性について	
報告者　井坂　友美	日時　7月19日　午後3時～
所属分野　資源環境政策学分野	場所　第二講義室
座長	議事録担当者　井上　晋平

出席者

木谷、小山田、盛田、冬木、高篠、伊藤、韓、スチン、宮里、安部、ﾀﾝﾎﾞｳﾆ、中村、泉井、Bayu、高橋、金、黄、今井、渋谷、室井、徐、趙、Manalo、劉、王、井坂、伊藤、井上、西田、渥美、伊藤（航）、江守、佐々木

報告要旨

高度成長以降，農業的世界との関わりを求める都市住民によって，観光農園や市民農園におけるレクリエーション農業がさかんに行われるようになってきた．しかし，都市住民はこうした活動を通して真に農業的世界と関わっていると言えるだろうか．本報告は，まず第2章でわが国の農業・農村において土地（環境）と人の相互の働きかけによって成立する場所性を示す．その上で，第3章で宮城県鹿島台町のITを活用したレクリエーション農園の事例を手がかりとして取り上げ，第4章で都市住民から経営者に支払われる土地利用料に着目してその経済構造と都市住民の農業・農村への関わり方を分析する．ここにおいて，都市住民は農業・農村を記号化してこれを商品として取引しており，そこにはむしろ農業的世界に必要不可欠な場所性が欠如していること，すなわち没場所性：意義ある場所をなくした環境と，場所のもつ意義を認めない潜在的姿勢が示される．またこれを示すことによって，レクリエーション農業をただちに農業的世界との関わりと理解することに孕まれている危険性を指摘する．

質疑・応答

伊藤：実証するのは難しいのでは？ＩＴを使ったレクリエーション農園は始まったばかりで、このまま続くのか、新体制になるかもしれない。総務省の地域興し計画によるものと対比してみては。ＩＴを使うことは入口としてはすばらしいがその持続性などについて考えてみては。

冬木：利用している人の属性（農業に対する経験の違いなど）の違いから見られる意識の違いなどがあればおもしろい。利用者は一人一人のばらされた市場参加者になっているが、農村では人のつながりがある。その関係性から実証研究から何か分かれば興味深い。

高橋：レクリエーション農園やオーナー制度などで農地を利用し農業収入を得られれば、農地が利用されないままより良いことだし、中山間地域などでは観光の助けにもなるかもしれない。

井坂：棚田のオーナー制度では利用者からの利用費で景観を維持するのに役立っているし、経済効果は肯定されるべきものであるが、その仕組みが場所性という観点からどうなのかを今回は捜索してみた。

小山田：レクリエーション農業はイメージを売っているようなもので、作業することで身体性は存在している。レクリエーション農業のおもしろさみたいなものも考えてみては。